

An aerial photograph of a city, likely Fuyuhara City, is shown with a semi-transparent blue overlay. The city's layout, including roads, buildings, and green spaces, is visible through the blue tint. A dark blue rectangular box is positioned in the center of the image, containing the chapter title.

第 2 章

社会情勢の変化と 富谷市の現状

1

時代の潮流

時代の変化による社会全体の環境と課題として、次のようなことがあげられます。

(1) 人口減少社会と超高齢社会の本格化

日本では少子高齢化が急速に進行し、人口減少社会に入っています。平均寿命が延びる一方で、介護や支援の必要性が高まる後期高齢者や単身高齢世帯等の増加により、社会保障費等の支出が大幅に膨らんでいくことも懸念されており、シニア世代の健康・生きがいといった生涯現役・生涯活躍の社会づくりや高齢福祉施策の推進、支え合いの地域社会づくりなどの必要性が一層高まっています。

少子高齢化に伴って進む生産年齢人口（15～64歳人口）の減少は、労働力の減少や消費の縮小を招き、社会全体の活力の低下、地域経済の縮小など、住民生活全般に大きな影響を及ぼすことが懸念され、その対応が課題となっています。

(2) 持続可能な社会の実現に向けた取組の拡大

地球温暖化による気候変動への対応や再生可能エネルギーへの転換、生物多様性の保全といった地球環境問題への対応が重要な課題となっています。近年の地球温暖化の進行によって、猛暑や台風の頻発化等の気候変動が発生し、洪水や干ばつ、農作物の生産可能地域の変化や大規模な不作等が食料供給に影響を及ぼしており、今後の食料の確保や更なる物価の高騰が懸念されています。

環境資源は有限であるという前提に立ち、それらが適切に管理されることで、経済活動や社会が長期的に維持される持続可能性と、将来世代のニーズを損なうことなく、現世代のニーズを満たす持続可能な開発が世界共通の普遍的な概念として注目されています。身近な地域社会においても、環境と経済の両立が不可欠であり、市民、企業、行政などが協調し、持続可能な社会の実現に向けた取組を進めていくことが求められています。

(3) リスク社会における安全・安心な暮らしの担保

産業技術の発展は人々の生活に豊かさをもたらしてきましたが、同時に社会経済の複雑化、グローバル化を進展させ、環境問題の深刻化、甚大な被害を引き起こす風水害の発生、感染症の世界的大流行といったこれまで想定していなかったような巨大かつ複雑で様々なリスクが生み出されるリスク社会を到来させています。

今後は、環境、産業、交通、防犯・防災、食の安全性、公衆衛生、感染症対策、消費者問題など多分野にわたる様々なリスクに対する責任や対策の実施主体を明らかにしつつ、リスクの評価・管理を適切に行いながら、安全・安心な暮らしを確保していくことが求められています。

(4) 多様性を認め合う社会の形成

社会の成熟に伴い、人々のライフスタイルや価値観が多様化する中で、家族や世帯のあり方や結婚や性に対する考え方、人と人とのつながりや関係性などが大きく変化してきています。近年のICT技術の発展やワークライフバランス重視をはじめとする仕事観の変化、政府の働き方改革推進などによって、テレワークや時短勤務など時代の流れにあわせ働き方も多様化してきています。

また、グローバル化の進展によって、外国籍の市民や海外からの来訪者が増加し、国籍や民族、生活文化や習慣の違いなど多様なバックグラウンドを持つ人々が地域社会の中で増えてきています。このため、年齢、性別、国籍、文化・習慣、障がいの有無などにかかわらず、誰もが尊厳ある個人として尊重され、一人ひとりの個性や多様な価値観・生き方を互いに認め合い、地域で共に支え合いながら安心して生活し、活躍できる環境づくりが求められます。

(5) 市民協働型のまちづくりの進化の必要性の高まり

人口減少社会に突入し、超高齢社会を迎え、行政だけでは解決できないような社会的課題が顕在化しています。このような状況を踏まえ、これまで以上に、市民力・地域力を結集した市民協働型のまちづくりを進めていくことが求められています。市民力とは、市民が自主的・自発的に地域課題の克服に取り組もうとする力であり、その力が地域コミュニティの維持や社会的課題の解決には必要不可欠です。

また、これまでの協働はどちらかといえば、主に市民と行政の関係で考えられてきましたが、今後は、市民や行政、市民活動団体、地域組織をはじめ、教育機関、民間企業など多様な主体による協働が求められます。

(6) 地方創生の推進と公民連携の必要性の高まり

国、地方共に財政状況がひっ迫する中で、行財政改革が進められ、地方自治体の果たすべき役割についても見直しが進められています。

また、高度経済成長期に集中的に整備された道路や橋梁、公共施設等の社会基盤の老朽化が急速に進行しており、補修修繕、維持管理にかかる費用が急速に増大することが見込まれており、地方自治体の財政に対して大きな負担を与えることが懸念されています。

国は、急速な少子高齢化の進行による人口減少や東京一極集中を是正し、各地域がそれぞれの特徴を生かした自立的で持続的な社会を創生することを目指し、地方での雇用創出、地方への人口移動、結婚・出産・子育て等における若年世代の支援、安心な暮らしづくりなどの地方創生を促進しています。様々で困難な行政課題を解決しつつ、地方創生を実現していくためには、各自治体が主体性を発揮し、地域の固有性を生かした施策を展開する重要性が高まっているとともに、近隣市町村等との広域的な連携も求められています。

また、社会益と企業益の相乗発展を目指す企業、本業において公共領域への進出を図る企業が増えつつある中、公共サービスは行政が行うという既成概念を払拭し、公民連携による公共サービスの提供を模索するなど、行政では持ち得ていない、民間の資金力やノウハウをこれからのまちづくり、地方創生において積極的に活用していくことが求められます。

(7) 経済環境の変化とDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

近年、IoTやビッグデータ、AIの進化やロボット技術の発達、自動運転や燃料電池車の開発、医療の高度化などの技術革新が進んでいます。こうした情報技術の高度化をはじめとした技術革新は、「第四次産業革命」と呼ばれる段階に移行しつつあるといわれており、生産設備や流通（供給）サイドと消費（需要）サイドをICTでつなぐことで、自動化が図られた効率的な生産・流通体制を構築しようとする「つながる経済」、「つながる産業」の潮流として発展しており、将来的に深刻化する労働力不足への対応としても期待されています。

また、生産や消費といった経済活動に加え、健康や医療、公共サービス、働き方、ライフスタイルにも影響を与え、様々な社会課題を解決することが期待されています。IoTの普及によるシステム化やネットワーク化の取組を、ものづくり分野だけではなく様々な分野に広げ、デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が提唱されています。

政府では、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会としてSociety 5.0を提唱しており、また、デジタルの技術の活用により地域の構成を生かしながら地域の社会課題の解決を目指す構想を掲げています。本市のまちづくりにおいてもAIやビッグデータの活用、スマートモビリティやMaaSの導入等デジタル技術を活用した取組が求められています。

2 市民参加・市民ニーズ把握の取組

(1) 市民アンケート調査

※アンケート結果の概要を資料編に掲載しています。

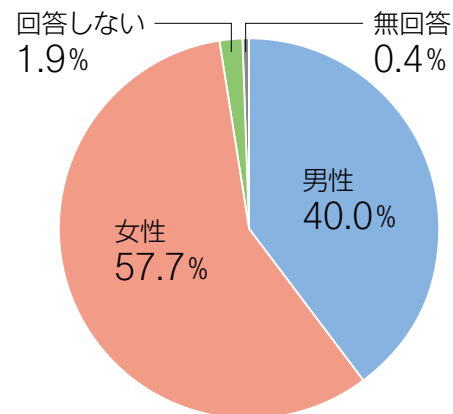
市の現状評価や定住意向をはじめ、今後期待するまちづくりの方向性や各分野における施策要望など、市民のまちづくりに関する意識・ニーズ等を把握し、第2次富谷市総合計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として、アンケート調査を実施しました。

■調査の概要

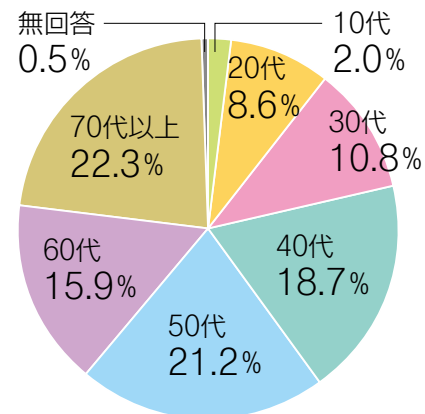
調査名	富谷市まちづくりアンケート調査
調査期間	2024年(令和6年)9月27日(金)～11月5日(火)
調査対象者	富谷市内にお住まいの18歳以上の市民
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
配布数	2,000票
配布・回収方法	郵送による配布・郵送もしくはWebによる回収
回収数(率)	1,226票(61.3%) ※内訳は郵送767票:Web 459票(62.6%:37.4%)

■回答者の属性

〈性別〉



〈年代〉



(2) 富谷市総合計画審議会委員の意見

富谷市総合計画審議会は、市長の諮問に応じ、本市の総合計画の策定や推進、総合計画に関する重要な事項について調査審議する機関として設置され、学識経験者、関係行政機関の職員、産業・金融の関係者、行政区長等の市民委員の15名で構成されています。

第2次富谷市総合計画の策定にあたり、令和6～7年度に審議会を計7回開催し、審議会委員から富谷市のまちづくりへの想いや様々なご意見をいただきました。

■審議会委員のまちづくりへの想いや主なご意見

企業誘致だけでなく、その企業で働くために来た人には、富谷に定着して住んでもらえるようなまちづくりが大事である。

工場見学など地元企業を知ってもらう機会を増やすなど、少しでも子どもたちの教育・体験というところに携わっていききたい。

農家においては、高齢化と後継者不足が喫緊の課題である。農地を守るためにも若い人の力が必要であり、支援策に期待している。

「子どもにやさしいまちづくり」は大事だが、「高齢者にもやさしいまちづくり」も大事なので、人と人をつなぐようなまちづくりを行うことが、本当の意味で「オールとみや」だと思う。

富谷市の強みのひとつは「市民力の高さ」だと思うが、現れているものはほんの一部で、多くの方の市民力が隠れているかもしれない。

「オールとみや」の考えを実践していくには、町内会の役割が非常に重要である。町内会は行政と市民をつなぐパイプ役であり、情報交換会等を通じて総合計画・施策を伝えていきたい。

富谷市はまちづくりへの学生参加に取り組まれている。多くの若者が参加できるような仕組みをセットし、取組を打ち出していけばよいと思う。



(3) 市民ワークショップの開催

第2次富谷市総合計画の策定にあたって、今後の本市のあるべき姿等について、自由に話し合える場を設け、本市の将来像を見出すことを目的に、令和6年12月から令和7年2月にかけて全3回のワークショップを開催しました。

グループワークでは、宮城大学のご協力のもと、富谷高校生8名をはじめ、10代から80代までの幅広い市民が参加し、活発な議論が交わされるとともに、多世代交流の機会となりました。

■市民ワークショップの概要

ワークショップ名	富谷市の未来について考える市民ワークショップ
開催日時	令和6年12月21日(土)、令和7年1月11日(土)、2月9日(日) 午後1時から午後3時まで
開催場所	富谷市役所(第1回)、東向陽台公民館(第2回、第3回)
参加人数	33名(広報紙、市公式ホームページ等により公募)

■主な意見

- 宿泊して楽しめるスポットの整備(宿泊施設の誘致)
- 泉中央までの移動手段整備
- 他地域から人を呼び込める目玉(道の駅、テーマパーク、体験農場、グランピング施設等)の創出
- R&D型など若者が働きたくなる企業の誘致
- 特色あるコンセプトを設定した公園の整備(動物とふれあえる、スポーツが楽しめるなど)
- 相談しやすい環境づくり(親世代の交流機会創出、不登校の保護者支援のPR)
- 得意分野に特化した教育環境の整備
- 外国語教育の充実、体験学習の充実
- 気軽に勉強できる場所の整備
- 市民参加型のワークショップの継続開催
- 障がい者との交流環境の整備(手話講座などの開催)
- 独居高齢者対策の充実、こどもと高齢者が交流できる場の整備
- 病院(救急病院、24時間対応の病院)の整備・誘致
- 外国人との交流機会の創出(小学校での英語授業、留学生との交流等)
- 情報を取得しやすい市公式ホームページ
- 地域住民同士の交流機会の創出
- 自然を楽しむ施設の整備(カフェなど)
- ゼロカーボンにつながる行動の知識醸成(学校での関連授業の拡充、ZEH住宅への補助等)



(4) タウンミーティングの開催

市民の皆様と共に取り組むまちづくりについて語り合うタウンミーティングを開催し、「私たちにできること」、「市と協働で取り組めること」をテーマに、市民の皆様のご意見やご提案をいただきました。

富谷高校生5名をはじめ、10代から70代までの幅広い市民が参加し、宮城大学のご協力のもと、合意形成アプリケーション「TACHI-NO-VOICE」を活用して活発な議論が行われました。

■タウンミーティングの概要

タウンミーティング名	とみやの未来を語り合う タウンミーティング×デジタル
開催日時	令和7年9月21日(日) 午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所	成田公民館
参加人数	16名(広報紙、市公式ホームページ等により公募)



■主な意見

- 町内会活動をデジタル化し、若い人の参加を促し、住民同士の交流を活性化したい
- 町内会や地域とのつながりから、気軽に“困った”が言える、困った先のアイデアがもらえる場や新たなつながりが生まれる街にしたい
- 地域活動に参加して世代を超えた交流を増やしたい
- 高校生など若い人がもっと気軽に参加できるようなものがあればいいと思う
- 各家庭でできる防災の事前準備に関する市民向けの周知や、市民同士の意見交換の場があると良い
- 学校に何らかの理由で行けない子どもの居場所づくり
- 学習支援ボランティアの充実
- 子育てで困ったことを気軽に言える場、聞いてもらえる場が欲しい
- 困っている家庭に緩やかなサポートができる体制を作りたい
- 学校の中で、地域の働く大人の話を聞く機会をつくる
- 色々な世代の方と交流できるワークショップに積極的に参加することや高校生も一緒になって考えたことが実現できたら良い
- 荷宿やとみぶらを上手に活用してほしい
- ユートミヤ等を活用した交流の場づくり

(5) 施策分野別団体ヒアリング調査

総合計画の策定に向けた基礎資料とするため、市内で事業活動を行う9事業者・団体等を対象に総合計画に関連する商工業・教育・福祉・地域コミュニティ・市民協働などの各分野における本市の課題や、今後のまちづくりにおけるニーズ等について、ヒアリング調査を実施しました。

(6) 絵画コンクールの実施

「とみやの未来」、「みんなのまちとみや」をテーマとして、市内在住の小学生を対象とした「みんなのまちとみや・こども絵画コンクール」を令和7年7月から9月にかけて開催しました。この絵画コンクールは、次代を担う子どもたちに、富谷市の未来の姿を考えてもらうことや富谷市への愛着を育むことを目的に実施したものです。

小学校1～3学年の部と4～6学年の部に分けて募集した結果、33点の応募があり、それぞれ市長賞1点、とみや未来賞4点が選出されました。（受賞者の学年は令和7年度のものです）

1～3学年の部

■市長賞受賞作品



「私の大好きな富谷のブルーベリー」
東向陽台小学校3年 佐藤 心花さん

■とみや未来賞受賞作品



「ユートミヤ にじのとしょかん」
東向陽台小学校2年 西村 和奏さん



「未来のとみや ブルーベリーとともに育つまち」
成田小学校3年 豊島 颯華さん



「笑顔の街 富谷」
明石台小学校2年 成澤 海斗さん



「お花がいっぱいのまち とみや」
明石台小学校2年 高橋 波那さん

4～6学年の部

■市長賞受賞作品



「大好き富谷 未来の富谷」
成田東小学校5年 高橋 姫月さん

■とみや未来賞受賞作品



「楽しい富谷市」
明石台小学校4年 阿久津 花さん



「感謝」
富ヶ丘小学校6年 金子 咲良さん



「音楽あふれる富谷市」
東向陽台小学校4年 鹿野 あかりさん



「人も自然もえがおでゆたかな富谷市」
東向陽台小学校4年 菊池 玲緒奈さん

3

まちづくりの主要課題

本市を取り巻く環境、市民ニーズや各種調査等から得られた現状分析結果を踏まえ、これからのまちづくりにおける主要課題を以下のとおり設定します。

課題1 産業・観光

地域の特性を生かしたまちづくりを推進するためには、働く場所の充実や、地域に根付いた魅力的な産業が発展し続けることが重要です。地域の活力を生み出す市内企業への支援や多様な企業の誘致、ローカルベンチャーの創出等による雇用の確保、新たな担い手づくりによる農業の振興などを通じた、産業の活性化が求められています。

また、本市の歴史や、生活文化、産物、自然などの地域資源を活用した特産品の開発や観光施設等の活用による、地域経済の好循環を生む観光振興にも取り組んでいくことが重要になります。本市独自の魅力を「とみやシティブランド」として確立し、全国に発信しながら交流人口の拡大に取り組むとともに、住みたくなるまちづくりへとつなげていくことも求められています。

このような課題の解決に取り組むことで、本市の関係人口を増やし、将来的には本市への移住定住に結びつけていくことが求められています。

- ➔ 多様な企業の誘致による働く場所の確保
- ➔ 市内企業の育成、稼ぐ力の向上
- ➔ 富谷塾等を通じた地域で活躍する人材の更なる育成・起業創業支援
- ➔ 農業の担い手の育成・支援
- ➔ 観光資源を生かした誘客の促進、観光スポットの連携
- ➔ 特産品の生産拡大とブランド価値の向上

など

課題2 都市基盤（公共交通・道路・公園・住宅・上下水道）

本市は、都市機能と豊かな自然が共存する優れた住環境を有しています。DXの推進等により都市機能の更なる充実を図りつつも、自然環境を保全し、田園風景とのバランスや環境に配慮したまちづくりなどの取組を進めることが重要となります。

また、本市では、通勤・通学者の仙台市泉中央駅へのアクセス等が課題となっていることから、本市での暮らしやすさを向上させるためには、新公共交通の整備の検討を進めることや既存の公共交通の利便性を高めることが重要となっています。加えて、市内の回遊性を高めるため、市民バスやデマンド型交通の利便性向上や利用促進も課題となっています。

- ➔ 新たな宅地開発や住環境整備
- ➔ 新たな商業地・業務地の開発
- ➔ 仙台市泉中央駅までの新たな基幹公共交通の整備
- ➔ 公共交通の利便性向上
- ➔ 道路や上下水道施設の維持管理
- ➔ 都市と自然との調和

など

課題3 子ども・子育て・学校教育

本市においても、出生率の低下により少子高齢化の進行が見え始めています。少子化の進行を鈍化させ、まちの活気を維持するためには、子ども・子育て支援や教育環境の更なる充実を図るとともに、引き続き、「子どもにやさしいまちづくり」を進め、子どもや若者、子育て世帯に選ばれ、住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

子どもにやさしいまちの実現に向けては、富谷の未来を担う子どもたちを社会全体で支えるとともに、子どもの権利を保障し、子どもが自らの意見を表明できる機会の確保や、子どもの視点を市政に反映していくことが重要になります。

また、誰もが安心して子どもを生み育てられるよう、結婚・妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援が求められています。

学校教育においては、子どもたち一人ひとりが心豊かにたくましく生きる力を伸ばし、ICTの進展など時代に即した学びを得られる教育環境づくりに向け、家庭・地域・学校・行政が連携した教育の推進が必要となります。

- ➔ 「子どもにやさしいまちづくり」の普及・啓発
- ➔ 子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)の推進
- ➔ 子ども・子育て支援の更なる充実

- ➔ 保育環境の更なる充実
- ➔ 教育環境の更なる充実

など

課題4 健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化

本市における医療体制は、これまで医療機関の連携・協力により維持されてきましたが、将来的な少子高齢化の影響を視野に、誰もが安心して生涯を過ごせるまちづくりを推進するため、市内における福祉施設や救急・急性期を担う総合病院などの拡充を図ることが求められています。

また、健康寿命の延伸に向けた高齢者等の介護予防や居場所づくり(世代間交流)、経験を生かせる活動機会の提供、公共交通の充実、買い物支援など誰もが充実した生活を送れる環境づくりに向けた取組が重要です。

加えて、市民の誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会や、誰もが気軽にスポーツに親しみ健康な体づくりができる機会、本市の文化・芸術に親しむ機会や文化活動に参加できる機会などの充実にも取り組むことが求められています。

- ➔ 医療・福祉施設の拡充
- ➔ 生きがいづくりの推進
- ➔ 公民館の市民センター化への取組

- ➔ 健康づくりの推進
- ➔ 高齢者や障がい者等への支援の充実
- ➔ ユートミヤの運営

など

課題5 防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化

近年、大型地震や気候変動に伴い頻発する自然災害や新たな感染症の脅威等から市民の生命と財産を守り、安全に暮らせるまちづくりを進めることが求められています。災害時には地域における助け合いが重要になることから、市民の防災意識を高めることが必要です。日々の生活において、自助・共助・公助を着実に進め、地域コミュニティでの見守り活動などを通して、犯罪や交通事故の無い誰もが安心して生活できる地域づくりを進めていくことも重要です。

また、年齢・性別・国籍などにかかわらず、市民一人ひとりがまちづくりの担い手として活躍できるよう、多様性を尊重し、様々なチャレンジができる環境や、地域で支え合い、地域の発展に取り組むことができる環境を整える必要があります。

- ➔ 防災組織の育成促進
- ➔ 男女共同参画の推進

- ➔ 安全・安心な生活環境の確保
- ➔ 多文化共生の推進

など

課題6 自然環境・ゼロカーボン・環境衛生

本市が有する農地や森林などの自然環境を保全・継承し未来へつなぐとともに、都市機能と自然環境が調和した田園都市を目指して環境にやさしいまちづくりを進めることが重要となります。

また、2015年に国際連合において採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」は国際社会共通の目標となっており、本市のまちづくりにおいてもその方向性を踏まえた取組の推進が求められており、ゼロカーボン社会の実現に向けた再生可能エネルギーの普及促進や環境教育、啓発などにも取り組んでいく必要があります。

- ➔ 豊かな自然環境の保全と活用
- ➔ 2050年ゼロカーボンへの取組

- ➔ SDGsや環境問題への対応
- ➔ ごみの排出抑制と再資源化の推進

など

課題7 地域活動・協働・広報広聴・行財政経営

近年の社会環境の変化等により地域の課題や市民ニーズが多様化しています。これからのまちづくりの中で何よりも重要なのは、行政だけでは対応しきれないニーズに対し、市民、団体、企業、行政等が協力して「みんなの課題をみんなで解決する」ことであり、市民力を生かした持続可能なまちづくりの実現を目指す必要があります。

また、本市の財政状況を踏まえ、限られた経営資源を有効に活用して、社会環境の変化に伴って多様化する市民ニーズに対応するとともに、将来にわたって持続可能な行財政運営を推進していく必要があります。

- ➔ 市民力の高さを生かした協働のまちづくり
- ➔ 行政改革の推進
- ➔ 市民の声をよく聴き、施策に反映させる体制の充実

- ➔ シビックプライドの醸成
- ➔ 戦略的な情報発信
- ➔ 健全財政運営

など